



神奈川歯科大学 理事長

鹿島 勇

## 先制的成長戦略

新年明けましておめでとうございます。

司馬遼太郎は「この国のかたち」の中で、150年前の明治維新は、日本を植民地化の危機から守ることを唯一の目的に、封建社会を否定した革命であったと述べています。

本学の不祥事による存亡の危機からの脱却も、他大学との吸収合併から回避する事を目的に、過去の慣習を否定した小さな維新であったと言えるでしょう。その歴史を知る専任教職員もすでに4割を切りました。

新元号元年は、第一次未来化構想の集大成であると同時に、次の10年を見据えた先制的成長戦略策定の年となります。

### アバンギャルド TDH

「前衛」と訳されるフランス語のアバンギャルドは、革新的な表現方法の枕詞として、芸術分野において使用されています。しかし本来は、本隊に先駆けて敵地を偵察したり、先制攻撃を行う部隊を意味する軍事用語です。「アバンギャルド TDH」とは、

4月に開校する東京歯科衛生専門学校 (TDH) が、本学の未来化構想を成功させるための戦略上の拠点であることを形容するものです。

私達は2010年を節目に、財政再建と同時進行で数々の成長戦略を策定し、それを実行してきました。そして、10年を一単位とする最終年の今年、専門性の高い先端口腔医療機関としての東京サテライトクリニック構想が動き出します。その成功の鍵は、先制的成長戦略の核となる TDH に委ねられます。

### “ワニの口”と未来化構想

“ワニの口”とは、国の歳出と税収との乖離（かいり）が、大きく開いた鰐の口に似ていることから、日本の財政状況を比喩した表現です。その開きを補填するために発行された国債は、国の借金として800兆円をすでに超えます。その張本人が、社会保障制度の中の年金と医療そして介護なのです。

定年後に、払った分に見合うお金を受け取る年金に関する諸問題は、入口と出口がお金であることから、両口の締め具合で比較的シンプルに対応できます。しかしながら、払ったお金でサービスを対価として受け取る医療と介護は、入口と出口が質的に異なります。そこには、多種多様な業界の思惑や政治等が複雑に絡んできます。それ故、決定的な策は無く、国の借金が増え

続けているのが現状です。

本学の財政再建（復旧）と未来化構想（復興）との関係は、そのワニの口に類似しています。財政再建は基本的に収支バランスの改善であり、入口と出口の関係は年金と同じです。一方、未来化構想はお金を払って本学の夢、希望を手に入れることになります。入口と出口が異なる関係は、医療と介護の論理と同じです。したがって、復旧よりも復興の方がはるかに難易度の高い課題となります。

本学の未来を託した TDH は、その意味でも必ずや成功へと導かなければなりません。

### DeNA とジャカランダ

2011年、横浜ベイスターズ (DeNA) の試合は、球場に空席が目立ち、球団の赤字も10億円を超えていました。新経営者は、その状況を打開するために戦略を根本から見直しました。それは地元密着型のチームを目指し、地域発展の象徴へと変身することでした。

そこで、監督を含めた全ての選手が小学校を訪問し、お昼の給食を子供達と一緒に食べることからスタートしたと聞きます。子供達は、そのことを家に帰って両親に話し、さらに家族から他の人達へと拡散していきました。その結果、球場に足を運ぶファンも多くなり、現在は席を確保するのも大変な人気となりました。それに伴いインフラビジ

ネスも波に乗り、2017年は5億円の黒字へと転じました。

法人主催の文化事業であるジャカランダフェスティバルも、このDeNAの戦略と同じです。地元の方々に認知され、信頼され、利用していただく事によって本学は更なる躍進を遂げることが出来ます。有志を募って始まったこのイベントは、今や100人を超えるスタッフと5,000人近い動員数へと展開し、地域に定着した一大催事となりました。さらに、このイベントを通して教職員間の連帯感も強まり、多くの対話や議論の機会を作りました。それは、生産的な討論のグッドクラッシュであり、ヘイトクラッシュらしきものは一度も耳にしていません。

DeNAが負ければ次に勝つ事を期待するように、花が咲かなければ次の年満開になる事を願って、今年も皆さんと共にフェスティバルを成功させなければなりません。

### おわりに

バイリンガルスクールに引き続き、今年4月1日、1歳からの幼児保育施設の委託開園を予定しています。その対象は、米軍基地在住の方々とは本学の教職員としました。これで本学は、1歳から5歳までの子供を受け入れる施設が完備したことになります。働き方改革の一助となる事を願いながら、理事長として10回目の新年を迎えます。

## 理事長×学長 トップ対談

対談：鹿島勇理事長、櫻井孝歯科大学学長、  
長谷徹短期大学部学長

司会：広報委員会委員長 窪田光慶

— 現体制となつてから今年で10年を迎える節目に、理事長、両学長にこれからの10年を伺つた—

**司会**：大学新聞の新春号6年分を見せていただき、理事長のお話は非常に持続性のあることと、歴史的な見地で物事を捉えられていると感じました。

**理事長**：私の物事の考え方の一つに、“歴史は現代史である”が基本にある。世界の二大フィルムメーカーで、K社とF社に関わつた時のこと。F社は時代を先読みし、付加価値を高めるための改革を行い、事業の多角化に投資した。一方、K社は時代の流れは解つていながらも現状維持に徹した。そこに二つの大企業の勝敗を見た。この事から、どん底に落ちてでも基軸を守りながら付加価値を高める必要性を学んだ。TDH、地域密着型の新病院、ジャカランダフェスティバル、人体標本館そして留学生確保等、9年間に亘り大学の付加価値を高める方向を目指してきた。これらの先制的を意識した成長戦略の手法は、私の経験からきている。

**司会**：それらはその様な経験から決断されたのですか。

**理事長**：そうですよ。スピードと決断力。先制的な成長戦略を教職員がどこまで理解してくれているか、それは判らない。

**長谷**：今の先生のお話を聞くと、これまでの本学の歩みが体系化して繋がっているんだと解り、実は最初から戦略を持って鹿島先生がやられていたのだと感じますね。あの時点ではどうするんだらうと躊躇し、右行け、左行けと言われるままに従っていくしかなかった。でも、今聞いてみると先生のF社の経験を本学に取り入れて、正に先手を打っていたことがわかります。

**理事長**：僕が逆に聞きたいのは、短大の学長、歯科大の学長として次の10年を見据え、どういう夢と戦略を、教育・研究に対して考えているのか。二人のビジョンを知りたい。

**櫻井**：歯科医師受給問題がクローズアップされ、歯科医師過剰と、歯学部が非常に低迷し、特に私立の歯学部は学生募集が非常に危機的な状況に陥り、今でも8校が定員割れを起

している状態です。ただ、客観的にデータを眺めると、これから日本の人口が減っていくことは統計的に間違いなく、地方の人口が減って都市集中型が加速する恐れがある。歯科医師過剰と言われているが、歯科医師の供給は一桁回生の時代は各学年260人も学生がいた時代で、一挙に歯科医師が激増しました。しかし10年後は団塊世代の人たちが辞めていき、その後歯科業界を支える若い力が減り、歯科のステータスが今後上がっていくだろうと考えている。大学も、歯科医療業界全体のステータスの向上を考えていかなければならない。

**長谷**：短大には二つ大きな問題があります。まず、学生数の確保が大変難しくなっている。本学に限ってのことではなく日短協でも話題になっているが、歯科衛生士の社会的認知度が低く、高校訪問してもなかなか良さが高校生に伝わらない。今は看護師と保育士に人気があり、先生に説明しても理解してもらえない。日本歯科衛生士会とともに歯科衛生士の業務をどうやって一般の高校生に広めていくか、それが学生の確保につながっていくと思っています。もう一つの問題は、本学の指導的立場の教員がここ5年で切替時にきている。そこを無事乗り越えて中堅教員、若手教員にバトンタッチし、短大が隆盛することが大きな目標です。さらに言えば、理事長の唱える地に足のついたグローバル化、アジアの中、ASEANの中で本学がどう歩むか、実際にベトナムから留学生が来たりしていますが、今後の展開を模索しています。さらに、歯科衛生士の教育モデルはアメリカから導入されましたが、アジアの中では歯科衛生士という職業がまだないところも多い。本学の



教育モデルをベトナムやシンガポール、さらに色々なところに打ち立てていく、これは長期プランですがそういう夢があります。まず、内側を固めて、広い意味でASEANの中で神奈川歯科大学の教えを広めていきたい。

**理事長**：二人の話を聞いていて、僕が感じることは、本学が一番欠けているのは、人材育成力、独創性、時代の潮流の先読み、これらが未来を制していく。大学が他と違うのは何かというと研究しかない。優れた研究に裏付けられた、卓越した技術がないと人材は集まらない。

歯科衛生士の人気がない理由は、認知度が低いことにある。宣伝の仕方なんだよ。将来AIに文系の仕事は取られていく。しかし、歯科衛生士の仕事はAIには取って代われない。さらに、歯科衛生士は国家資格であること。これらをうまくアピールする。我々歯科医師の世界が伸びる為には、歯科衛生士や歯科技工士の地位の向上が必要である。

**長谷**：そうですね。そうだと思います。

**櫻井**：歯科界全体のイメージアップはそこにあつて、歯科医療界は歯科医師自身が歯科医師過剰と発言し、歯科界のステータスを低下させている。これによって歯科衛生士の人気はないし、歯科技工士は絶滅危機です。

**理事長**：そういう事。だから看護学校は数校しかなかったが、あつという間に数百校に。これは認知度が高いから。歯科界が衛生士の地位向上を貶めている。それに気が付かないことが課題だね。これを本学が先行してやる。その意味ではTDHの存在意義は大きい。

ところで、ワニの口と言えは経済界で

は誰でも知っている。張本人は医療保険であり、医科が大半で歯科の占める割合は一割しかない。これを根本的に解決しなければならないことは国もわかっている。AIが一人の人間の能力を超えるのが2029年、それが口の閉じ始める目安となる。ある時期に保健医療制度は激変するであろうから、その時に乗り遅れないようにしなければならない。

**司会：**地域密着型と地域貢献についてお話を伺えますか。

**理事長：**地元密着型にするにはどうしたら良いか。ジャカランダフェスティバルで大学を認知してもらう。また地域貢献としての障害者カフェの開設。これは有形、無形の付加価値につながる。お金を出して得る価値と、使わずに得る価値。両者をバランス良くやるのが大切。

**司会：**DeNAの成功も地域密着型でジャカランダに似ているわけですね。

**理事長：**経営者の手腕、基本的に町のレストランも食堂も中小企業、大企業そして大学も基本は同じ。

**司会：**まさに付加価値を生む、ですね。

**理事長：**また、学内施設の一部をバイリンガルスクールと幼児保育施設に貸出した。施設使用料を頂くと同時に本学の教職員も利用できる条件とした。

**司会：**今年のタイトルは「先制的」でしたが。

**理事長：**新年号のタイトルは毎号考えている。去年は「突破力」で、今年は「先制的」。さらに「アバンギャルド」という言葉を使いTDHは東京における先鋭隊であることを表現した。

**司会：**まさに歯科医師と衛生士のステータスを上げるための前衛だったんですね。

**理事長：**その辺がどこまで理解されているのか、そういうことを新年号で発信している。

**司会：**だいたい理事長の方針を聞かせていただいたのですが、それを受けて是非学長のほうから、抱負を頂ければと思います。

**櫻井：**将来構想委員会で長期計画を作っています。10年後の本学の在り方を目指し、今年からスタートさせたい。学部教育のこと、研究に関して

は先ほど理事長からも出ていましたが研究力向上。私の目標は小規模大学ですが、世界一といえる研究を一つ樹立し、それを幹として発展させたいという10年構想ですね。

教育に関しては、国家試験から進級率を含めて全てを80%までレベルを引上げていきたい。そういう大学は日本で岡山大学が最も近い。すべてを80%とすると教育力として日本一とみなすことができます。かなり壁は厚いですけど、それを目指して今年スタートします。

国際化について、神奈川県知事との懇談会で、歯科医師受給問題など他の学長からも話題に上がり、日本の歯科医療のレベルはそんなに低いのかと言われた。日本の歯科医師はレベルが高いなら、なぜ国際展開していかない、日本の歯科界は考えないのか、と言われて確かにそうだ。歯科界も本学も今後益々国際展開を進めていかなければならない。

法人運営に関しては、長期展望のある財務計画、人材確保が重要です。特に人材確保については、先ほど長谷先生もおっしゃっていましたが、歯科大も同じ状況で、あと5年くらいで執行部を支えている先生方のほとんどが定年を迎えます。次世代の育成をしなければならない時期となっている。外部からも良い先生を確保して本学の将来の発展につなげていきたい。

**司会：**今年も何人か留学生が母国の国家試験に合格していますが、将来彼らが成功して、また知名度が高まり神奈川県に帰ってきてくれれば良いと思いますが。

**櫻井：**留学生も本格的に卒業していきますから、現地での同窓会支部として韓国支部と台湾支部を作ってもらおうよう卒業生に頼んでいて、間もなく韓国支部が立ち上がる予定です。台湾は今年初めての卒業ですから卒業後に支部を作って発展させていきたい。

**司会：**海外で同窓会ができ、総会ができればいいですね。

**理事長：**それは作ってもらわないとグローバルの意味がない。

**櫻井：**大館同窓会会長にも支部のバックアップをお願いいたします。

**司会：**短大学長の抱負をお願いしま

す。

**長谷：**理事長からも話のあったTDHが、これからの本学、あるいは本法人にとって存在価値の高いものとしなければ一員となった意義は薄れます。理事長からは専門学校といえどもTDHと短大の教育レベル・教育クオリティは同一レベルを保ちなさいと厳命されており、お互いに切磋琢磨していきたいと思っています。生物学的には『共進化』という言葉で表されます。一般に進化とは、強い動物が現れることで捕食される生き物は絶滅してしまうと考えられますが、例えばオオカミの足が速くなると、ウサギは瞬発力を増したり、聴覚をアップして危険を避け、結果的にお互いが進化していきます。私は、TDHは専門学校として、本学は短大としてお互いに競争しながら互いの良さを認め合い、それぞれのポジションで共に発展していきたいと考えています。今年がスタートであり、最初で躓かないように頑張っていきたいと思います。

**司会：**ステータスを二つ上手く融合して発展していく。

**長谷：**そうですね。ステータス或いはブランディングになりますね。

**司会：**海外なんかは歯科衛生士を含め歯科医師のポジションが非常に高く、アメリカなんかでもベスト5に入りますね。

**櫻井：**日本だけです、歯科医療界全体のステータスがこんなに低いのは。

**司会：**両学長の抱負を伺いました。理事長から両学長に何かございますか。

**理事長：**経営者側から言わせてもらうと、学長にお願いしたいことは、収容定員の充足。これが今年の課題。また人材を外から採る時、ジョブ・ディスクリプションとって明確な役割を与える。若手に対してはビジョンを持ってもらい使命を明確にし、リスクテイク。即ち物事に勇気を持って挑戦する感性を彼らに植えつけて欲しい。それをやらないと、本学は伸びていかない。

本学は小さな単科大学に近いけど、日本の歯科医療界をリードするポテンシャルは充分にあると思っている。

**司会：**有難うございました。



神奈川歯科大学 副学長・大学院研究科長

榎木 恵一

### 新年明けましておめでとうございます

本学における国試対策は、平成26年から3年間は比較的奏功してきました。しかし、「悟り世代」の登場で、学習への取り組み方がこれまでとは大きく異なる学生が増加し、環境の変化が生じています。来年度、この変化に対応した6年カリキュラムの再構築が望まれます。基本は、学生の当事者意識に働きかける工夫が必要であり、多くの教員の知識を結集し、乗り越えたいと考えています。そして、国試合格率だけでなく合格者数の増加を目指していく所存です。一方、大学院では、教育研究部が設立されたことで、研究を大きく進める使命が新たに生じています。本年度は、教員の研究力を分析し研究を組織的に展開するための戦略を立案中です。これにより、社会貢献できる研究を組織的に進めていく体制を強化していきます。さらに、研究シーズ提供システムを構築中で、産学連携をこれまで以上に進めていきます。今後とも、教育・研究の充実に努力してまいります。ご指導ご鞭撻をお願いいたします。



神奈川歯科大学 副学長

藤内 祝

新年明けましておめでとうございます。

平成最後の年明けとなり30年余り続いた一つの時代が終わりますが、新たな年号と共に新たな気持ちで大学運

営に取り組んでいきたいと思っております。

神奈川歯科大学も一昨年100周年記念を迎え、また旧病院から新病院に生まれ変わりました。新病院は平成最後の約1年間かけて滑走し、いよいよこれから離陸し新しい年号と共に上昇していく時期と思っております。新病院は新たに「医科歯科連携センター」を設置し、口腔疾患と全身疾患との関りを中心に診療・研究を行うことを柱の一つとしております。これは歯科界全体にとっても重要な事項で、それをいち早く神奈川歯科大学が取り組むということは大きな意義があることであります。そしてこれが表から見える神奈川歯科大学の顔（大学の特徴）となると思っておりますが、それには全教職員がこの取り組みを理解して一丸となって推し進めていくことが重要ですので、ご協力をよろしくお願い致します。



神奈川歯科大学 副学長

菅谷 彰

### 新年度を迎えるにあたり

新年あけましておめでとうございます。本年が神奈川歯科大学、関係する皆様にとりまして実り多き、良き年になることを祈念いたします。

2018年問題として注目されてきた18歳人口は、止まらない少子化の進行に伴い、今後も継続的に減少していきます。大学全入時代から、定員割れ大学の頻発、さらには大学の統廃合が叫ばれているようです。過去120万前後で安定していた18歳人口は、今後十数年で100万人を割ることが予想されています。文部科学省が作成した今後代替可能性の低い100種の職業に歯科医師が挙げられてはいるものの、当然その業務内容は社会のニーズに鑑み変わっていき、また入学する学生像も変化する事でしょう。本学が今後目指すものはやはり、社会で活躍できる良

質の歯科医師の輩出に尽きると考えます。入試選抜における学生像の見直し、入学後の医療人としての育成に係る教育の改革等、対応すべきことは山積されています。微力ではありますが、更なる向上をめざし尽力していきたいと考えております。



神奈川歯科大学附属病院 病院長

小林 優

新年、明けましておめでとうございます。新病院の開設から早くも1年が過ぎました。最初の半年間は新システムに慣れるのに精一杯で、残念ながら収益の方もやや低迷しておりました。しかし幸いにも、患者数の方は開院以来順調に増え続けており、ようやくこれからが本番という感じになって参りました。ご存知の通り、当院では「地域に開かれた次世代の歯科専門病院」をコンセプトとして、医科歯科連携センターや先進歯科医療センター、全身管理高齢者・障害者歯科の開設など、幾つかの新たな取り組みに着手しています。亥年は、果実の種子がエネルギーを蓄えて次の世代へと向かう準備をする年、あるいは猪突猛進の言葉にある通り、勇気と冒険を象徴する年という意味をもつそうです。今年が干支に相応しい1年になることを願って、最大限の努力をして参る所存ですので、皆様方のご理解とご支援の程、宜しくお願い申し上げます。





横浜研修センター・横浜クリニック 院長

井野 智

## 2019年を迎えて

新年 明けましておめでとうございます。

昨年11月、千葉県歯科医師会ではついに「8029運動」をスローガンとして採択し、商標登録も済ませたとのこと。よくよく聞いてみると「29」とは「肉」を意味しているようで「80歳になっても元気にお肉が食べられますように」という願いが込められているそうです。義歯を専門にする補綴家にとっては、少々耳の痛い話ですが、ただ歯を残しているだけではダメ、しっかり機能できなければ、ということでしょう。昨年、当研修センターで開催した市民公開講座は計9回（医科6回、歯科3回）で、受講者は5年前の約6倍、延べ807名にもものぼり、内8割以上は65歳以上の高齢者です。つまり、健康（健口？）長寿を目指す方が着実に増えており、さらには、患者立脚型の医療が求められています。口腔から全身の健康状態までサポートできる横浜クリニックの強みを生かして、今年もさらに地域医療に貢献したいと考えております。ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



神奈川歯科大学 法人事務局長

菅原光則

## 「One for all, All for one」

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

今年2010年から始まった「未来戦略10年構想」の最終年を迎えます。改革を振り返ってみると映画「マネー

ボール」を思い出します。貧乏球団が金満球団にいかにか勝利するか、セイバーメトリクス（データに基づいた戦略）という手法で勝利した実話に基づいた映画です。ただ、この手法にも限界があり、その後はまた違う手法「ブローン戦術」を用いてチームを立て直しました。

本学においても今年は今までの改革を総括し、次の10年を見据えた成長戦略策定の年になります。4月からは成長戦略の拠点となる東京歯科衛生専門学校も開始されます。

世間では東京オリンピックが開催される2020年が注目されていますが、2019年も重要な年になります。「英国、EUから離脱」「新元号に改元」「消費税10%に引き上げ」「日本でG20首脳会議開催」そして「ラグビーワールドカップ」が日本で開催されます。

ラグビーでよく使われる「One for all, All for one」は大学運営にも当てはまります。ラグビーは、体の大きい人、小さい人、色々な人がいて自分の役割を果たして勝利するスポーツです。大学運営も教職員、学生、保護者、卒業生、地域等、すべての方々の協力が必要となります。

本年もどうぞよろしく願い申し上げます。



神奈川歯科大学同窓会 会長

大館 満

## 新年の抱負

謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様には日ごろより同窓会活動に対しご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

さて、「新年の抱負」とのお題をいただきました。去年一年を振り返ると、天災による災害が多くありました。温暖化の影響もあり、地球規模での気候変動で上陸した台風の数も多く、規模も超大型のものが目立ちまし

た。また、豪雨災害や大阪、北海道と地震も続き、全国各地でも何らかの災害に巻き込まれています。そこで今年の抱負は「台風や地震などの災害の減少」と言いたいところですが、私が災害を減らすことなどできません。災害での被災者が出ないことを祈るのはもちろんですが、万が一被災した場合、近隣を始め全国の会員が同窓会を軸として今まで以上に心の支えになることが今年の抱負です。

本年も同窓会のみならず、大学、歯科界の発展と安寧、そして皆様にとりまして良き一年でありますよう、心より祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。



神奈川歯科大学短期大学部同窓会 会長

名取すみ子

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになりましたこととお慶び申し上げます。

日頃より同窓会に多くの皆様方のご理解ご支援ご協力をいただき感謝申し上げます。

昨年は日本列島を多くの災害が襲い、被害にあわれた方には一日も早い復興とお見舞いを申し上げます。

現在、私どもの同窓会ももっと若い世代を取り込めるような活動、又、同窓会を身近に感じられるように猪突猛進だけではなく更なる飛躍の年になるよう役員一同努力しております。全国にいる同窓生も学生確保等も含め年代毎のクラス会を通してご協力いただいている事には継続をお願いしたい次第です。

本年も大学発展の為、同窓会と大学の絆を更に強くするためにも微力ながら協力させていただきたいと思っております。

皆様のご健勝とご多幸をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。

# 平成30年度競争的資金獲得一覧

種別	課題番号	研究種目	研究代表者	所属	職名	研究課題名
科学研究費補助金	16H05525	基盤研究 (B)	木本 克彦	口腔統合医療学講座	教授	多軸鍛造技術を応用した次世代 MDF 純チタンの医療材料への展開
	16K01135	基盤研究 (C)	飯田 貴俊	全身管理医歯学講座	講師	歯学生教育のための口腔期嚥下障害体験シミュレータの開発
	16K09806	基盤研究 (C)	青木 一孝	全身管理医歯学講座	教授	Dehydroepiandrosterone の生理作用の解明
	16K11531	基盤研究 (C)	泉 雅浩	顎顔面病態診断治療学講座	准教授	耳下腺導管を対象としたバーチャル CT-Sialography の確立
	16K11567	基盤研究 (C)	向井 義晴	口腔統合医療学講座	教授	ポリマイクロバイアルバイオフィルムモデルを用いた根面齲蝕研究モデルの開発と応用
	16K11568	基盤研究 (C)	鈴木 二郎	口腔統合医療学講座	講師	硬組織溶解能を利用した根管洗浄液の有効性に関する基礎的研究
	16K11706	基盤研究 (C)	三好 代志子	横浜・湘南地域災害医療科学センター	助手	ナノ修飾光触媒ハイブリッド微粒子を用いた口腔癌治療への応用研究
	16K11707	基盤研究 (C)	前畑 洋次郎		特任講師	EGFR シグナル阻害作用をもつ天然由来成分を応用した口腔癌治療薬の開発
	16K11736	基盤研究 (C)	居作 和人	口腔科学講座	講師	多段階癌抑制分子 CXCL14/BRAK の癌幹細胞を標的とした頭頸部癌抑制戦略
	16K11871	基盤研究 (C)	渡辺 清子	口腔科学講座	講師	ポリフェノールの生体内動態と歯周炎予防機序の解明
	16K11872	基盤研究 (C)	三辺 正人	口腔統合医療学講座	教授	非アルコール性脂肪性肝疾患と歯周病の関連および同疾患への歯周治療効果に関する検討
	16K11901	基盤研究 (C)	李 昌一	横浜・湘南地域災害医療科学センター	教授	メンタルストレスで生ずる活性酸素種の同定と抗酸化物質によるストレス軽減法の検討
	16K15796	挑戦的萌芽研究	石井 信之	口腔統合医療学講座	教授	花粉症のアレルギー性鼻炎症状改善における歯科保存治療の応用に関する研究
	16K15814	挑戦的萌芽研究	木本 克彦	口腔統合医療学講座	教授	抗酸化型ナノドロックス粒子による新たなインプラント周囲炎治療法の開発
	16K15859	挑戦的萌芽研究	松澤 直子	附属病院	臨床講師	高齢者の高次脳機能と酸化ストレスに対する効果的な摂食嚥下機能療法の探索
	16K20521	若手研究 (B)	丸尾 勝一郎		特任講師	超小型プローブを用いた高周波超音波のデジタル印象への応用【挑戦・展開】
	17K01377	基盤研究 (C)	高垣 裕子		特任教授	座位・身体不活動により脆弱化する骨の代謝を非侵襲的にモニターする測定法の開発
	17K11632	基盤研究 (C)	松尾 雅斗	口腔科学講座	教授	微小循環を指標とした数値 simulation による歯周組織再生療法評価法の確立
	17K11721	基盤研究 (C)	富山 潔	口腔統合医療学講座	准教授	抗菌剤処理後のう蝕、歯周病モデルポリマイクロバイアルバイオフィルム群集構造の解析
	17K11859	基盤研究 (C)	鈴木 健司	顎顔面病態診断治療学講座	講師	変異型 p53 が導くエンドサイトーシス異常の解析
	17K11860	基盤研究 (C)	生駒 丈晴	顎顔面病態診断治療学講座	助教	癌の新生血管を正常化させるサイトカイン CXCL14 の臨床的意義
	17K11922	基盤研究 (C)	竹内 良平		特任教授	GFP ラットとの血管吻合ラット技術歯骨欠損修復部位の超音波刺激による骨髄細胞動員
	17K11984	基盤研究 (C)	両角 俊哉	口腔統合医療学講座	准教授	スクリーニング後歯症に対する高齢者生体応答の解析と光治療による予防法の確立
	17K12027	基盤研究 (C)	合田 征司	口腔科学講座	教授	慢性歯周炎抑制機序における p38 MAPK family 新規機能の解明
	17K12028	基盤研究 (C)	木本 一成	口腔科学講座	准教授	インプラントメンテナンスでの低濃度フッ化物による創傷治癒の分子機構の解明
	17K12071	基盤研究 (C)	星野 由美	短期大学部歯科衛生学科	准教授	入院加療に起因するオーラル・フレイルの包括的スクリーニング指標の開発と基礎研究
	17K11694	基盤研究 (C)	山本 裕子	短期大学部歯科衛生学科	講師	腸内環境が唾液の質と感染防御をつかさどる：大腸が唾液中 IgA に与える効果の解明
	17K17112	若手研究 (B)	陽 暎艶		特任講師	多機能癌抑制分子 CXCL14 の頭頸部癌幹細胞の分化促進による癌抑制機構の解明
	17K17144	若手研究 (B)	飯塚 純子	口腔統合医療学講座	講師	コロジオン膜を利用した積極的再石灰化療法の開発と審美応用への展開
	17K17195	若手研究 (B)	泉原 淳之	口腔統合医療学講座	助教	介護高齢者の口腔内環境改善の取り組み—光ナノ触媒の弾性裏装義歯への応用—
	17K17340	若手研究 (B)	大塚 剛郎	口腔統合医療学講座	助教	呼吸様式が認知機能に与える影響について：NIRS による検討
	17K17387	若手研究 (B)	淵田 慎也	口腔科学講座	助教	ライフコース指標を用いた口腔保健の地域診断手法の開発
	17K18192	若手研究 (B)	齋田 牧子	口腔統合医療学講座	助教	ナノドロックス粒子によるアフタ性口内炎に対する抗酸化療法の新規開発
	17K18193	若手研究 (B)	佐藤 武則	口腔科学講座	助教	ポリフェノールの抗加齢作用による歯周組織改善効果
	18H03018	基盤研究 (B)	山本 龍生	口腔科学講座	教授	政策介入を目指した高齢者歯科口腔保健における地域差と個人および環境要因
	18K09586	基盤研究 (C)	小牧 基浩	高度先進口腔医学講座 (横浜クリニック)	准教授	歯周炎自然発症サルを用いた歯周炎関連分子の探索と歯周炎発症前診断への応用
	18K09587	基盤研究 (C)	室町 幸一郎	口腔統合医療学講座	助教	細胞膜上のシアル酸修飾を起点とした修復象牙質形成機序の解明
	18K09588	基盤研究 (C)	武藤 徳子	口腔統合医療学講座	准教授	歯髄治療過程におけるマクロファージ・歯髄幹細胞・再生神経のクロストークの解明
	18K09610	基盤研究 (C)	高橋 聡子	口腔科学講座	准教授	循環器疾患を有する患者の歯周病治療戦略—抗酸化物質クルクミンの効果の基礎的解析
	18K09670	基盤研究 (C)	濱野 奈穂	高度先進口腔医学講座 (横浜クリニック)	講師	ニケイ酸リチウムガラスに対する高機能表面改質の効果に関する基礎的研究
	18K09779	基盤研究 (C)	小澤 重幸	顎顔面病態診断治療学講座	講師	癌細胞の飢餓を引き起こすケモカイン CXCL14 の糖代謝制御機構の解明
	18K09869	基盤研究 (C)	木本 茂成	口腔統合医療学講座	教授	小児期における口腔機能発達評価指針作成のための調査研究
	18K09894	基盤研究 (C)	吉田 彩佳	口腔科学講座	助教	抗がん剤治療を応用した誤嚥性肺炎コントロール—新規口腔カンジダ症予防法の開発
	18K09895	基盤研究 (C)	遠山 歳三		特任講師	赤外自由電子レーザーによる殺菌作用及び歯周病原因子の不活性化作用についての研究
	18K09925	基盤研究 (C)	玉置 勝司	全身管理医歯学講座	教授	生活習慣病およびフレイル予防改善のための口腔内指標の確定に関する臨床研究
18K15648	若手研究	谷口 紀江	顎顔面病態診断治療学講座	助教	咀嚼不全がヒト海馬へ及ぼす影響について MRI 分析	
18K17035	若手研究	清水 智子	高度先進口腔医学講座 (横浜クリニック)	助教	唾液腺 BDNF の中性脂肪低下作用についての研究	
18K17132	若手研究	大野 晃教	口腔統合医療学講座	講師	機能的近赤外光イメージング法を応用した補綴治療の補助診断システムの構築	
18K17179	若手研究	黒田 英孝	全身管理医歯学講座	講師	三叉神経 (痛覚特異的ニューロン群) の ATP を介した炎症性疼痛の解明	
18K17267	若手研究	藤田 茉衣子	口腔統合医療学講座	助教	根未完成歯の硬組織誘導を目的とした新規治療法開発—覆膜剤と低出力パルスの併用—	
18K17268	若手研究	保田 将史		特任講師	乳児期ストレスに起因する口腔顔面領域での異常疼痛の発症メカニズムについて	
18K17302	若手研究	高城 大輔	全身管理医歯学講座	助教	認知症高齢者における口腔セルフケア評価指標の開発	
18K17303	若手研究	東 雅啓	口腔科学講座	助教	マルチオミックス解析を用いたフレイルの唾液バイオマーカーの探索	

## 湘南信用金庫と産学連携協定を締結

平成30年10月23日（火）  
湘南信用金庫と本学は、産学連携協定を締結いたしました。

調印式では、湘南信用金庫石渡卓理事長と本学鹿島勇理事長が調印を取り交わしました。

この協定は、神奈川県を中心に事業者の支援に力を入れている湘南信用金庫と歯科医学教育機関として100年を超える歴史を持つ本学との両機関が持つ「人的・知的資源、情報」を相互に提供し、コンサルティング機能を発揮する

ことで、産業経済の振興と人材育成・教育の振興、そして地域社会の発展と貢献に寄与することを目的としております。

今後は、共同での地域活性化に向けた取り組みを発展させていきます。



鹿島勇 理事長 石渡卓 理事長

## 全学防災訓練の実施

平成30年10月12日（金）  
今回の防災訓練は、法人防災訓練の中核を担う「自衛消防組織」の成熟と新病院開院後初となる合同開催とし、いかにスムーズな避難が完遂できるかを図る総合訓練を目的と致しました。

16:20～地震発生を告げる緊急地震速報を合図に、本部隊、建物毎の地区隊長及び指揮通報・避難誘導班を中心に、避難が開始されました。

避難行動自体は実にスムーズで、訓練の成熟を垣間見ることができました。懸念であった約300名を要する新病院からの避難においても、大きなトラブルもなく、予定時刻を2分短縮する16:38分には全員の安否確認を終え、計画通り進行致しました。しかしながら「訓練のマンネリ化」は払拭できず、次回以降については、イノベーションが必須であると痛感します。



## 第13回神奈川歯科大学白菊会総会及び懇親会

平成30年10月6日（土）に、第13回白菊会総会が執り行われました。

式典には、ご遺族様ら241名の方にご参列賜りました。冒頭、本学にご献体頂いた2029柱の御霊に黙祷を捧げた後、櫻井学長より総会は貴重な対話の機会である事の重要性が語られました。

歯学部2年生中嶋侑紀さんと中島麻衣さんから、実習の体験と感謝の言葉が語られ、4名のご遺族様から学生に向けた心温まる励ましの言葉を頂戴しました。

今回の講話は花王株式会社山下直子様から話をしていた

できました。

∞ 祝 横地千仞名誉教授  
生誕100周年 ∞

総会へのご参加は6年振りとなる横地千仞名誉教授が登壇され会場は盛大な拍手に包まれました。白菊会会員でもいらっしゃる横地名誉教授は、昨年10月で100歳を迎えられました。「皆様に会うのはこれが最後です」というご挨拶でしたが、矍鑠とされたそのお姿に人生100年時代の理想を見ました。

その後、親しく和やかな雰囲気の中で懇親会が行われ、式典は無事終了しました。



横地千仞先生



平成 30 年 11 月 4 日 (日)「結び～ Conclusion～」をテーマに今年で 54 回目を迎える稲岡祭が開催されました。今年も歯科大生と短大生とが一丸となり、学園祭を盛り上げ、お子様からお年寄りの方まで多くのお客様にご来場いただきました。野外ステージではこの日のために一生懸命練習した音楽部・ポップス部・軽音楽部・ダンス部が会場を盛り上げ、その後「瀬川あやか」「吉本芸人 (湘南パイプキャッツ・インポッシブル・ニューヨーク・とろサーモン)」「FUNKIST」

「チャラン・ポ・ランタン」のライブが行われ、大盛況のまま幕を閉じました。各クラブや有志団体からは「チョコロス」「焼きそば」「焼き鳥」といった馴染みのある出店で会場を賑わせ、「中華揚げパン」など国際色のある出店もあり大盛況でした。地域活動市民団体の方々による様々なブースもあり、地域の方々とも一緒に盛り上げることができました。毎年恒例の「無料歯科相談」「看護医療体験」なども加わり大変賑やかな学園祭となりました。

この度は第 54 回稲岡祭“結び～ Conclusion ～”にご来場いただきありがとうございました。第 54 回稲岡祭開催に伴い、本学学生をはじめ大学職員・先生方、並びに地域の皆様にはご協力賜り厚く御礼申し上げます。

平成 30 年度の稲岡祭のテーマである“結び～Conclusion～”は、学生と地域の方々を結びつけられるきっかけになれば良いという思いから、このテーマに決めました。そのため、地域活動市民団体様にも多数ご出展いただき御礼申し上げます。学生からは飲食店舗での販売や無料歯科検診・看護体験では実習室を開放し、また今年はお笑い 4 組アーティスト 3 組が学園祭をさらに盛り上げていただき、来場者に大学祭を楽しんでいただけたこと感謝しております。

私たち学生は今後も大学の発展に尽力し、地域の発展に貢献していきたいと思っております。ありがとうございました。

(稲岡祭実行委員長)



## 附属病院だより

**ジャカラダカフェオープン**  
平成30年11月1日(木)  
附属病院開院1周年記念として1階エントランスに「ジャカラダcafe」をオープンしました。

同日、上地克明横須賀市長並びに三育福祉会関係者らが

出席しオープニングセレモニーを執り行いました。

このジャカラダカフェは横須賀市内の障害福祉サービス事業所「三育福祉会シャローム浦上台デイサービスセンター」の出張所として新設され、当該施設の職員および

利用者さんが飲み物と焼き菓子等の喫茶販売を行います。

営業時間は月曜日～土曜日

の10時～16時。



## 横浜クリニックだより

### 地域医療連携室からの報告

昨年、横浜クリニックは、開院17年目を迎え、また地域医療連携室は7年目を迎えることができました。

開室した際に掲げた業務内容は、下記の通りです。

#### 1. 広報活動

- ・市民公開講座
- ・地域医療連携室レター (院外)
- ・患者様向け情報誌健診レター
- ・患者様向け情報誌院内レター

#### 2. 健康診断 (個人、法人) :

定期健康診断、人間ドック

#### 3. 返書の管理

#### 4. 当院に対する地域医療機関

からの要望の窓口

これらの業務は、横浜クリニックを地域の皆様にご理解いただくために行う業務としました。至らぬ所もあり、ご迷惑を掛ける事も多々ありました。

患者様のご紹介及び人間ドック・一般定期健康診断なども、当初より増加いたしました。近隣の大手予備校の学生さんの健康診断とインフルエンザ予防接種は、毎年定期的に行う様になりました。その中の学生さんが神奈川歯科大学の受験生となることもあ

るかもしれません。

広報活動に、地域情報誌を活用したところ、市民向けの公開講座のお知らせ等に有効でした。

これまでの主たる活動を表

に示します。

今年も地域の皆様に信頼され、更なる飛躍ができるように、活動をしていきたいと思

### 地域医療連携室活動報告

2012年(平成24年)6月～2018年(平成30年)10月

	講座数	参加延総数
市民公開講座	50	2,330
	号数	送付先
レター (H24.8～)	22	32,886
健診レター (H28.6～)	7	2,136
院内レター (H26.9～)	14	
	受診者延総数	総収入
ドック	1,276	47,470,431
企業健診	8,222	63,453,688
	医科	歯科
紹介数 (H25.4～H30.9)	13,722	28,646

## 講座紹介

**災害医療歯科学講座・神奈川剖検センター 主任教授・センター長 医師 長谷川 巖**

災害医療歯科学講座は、法医学分野の歯科医師と医師が活躍する大講座です。2016年4月に全国の歯科大学では初の、また神奈川県内4大学医学部にはない、死亡時画像診断専用CT(Computed Tomography)を常設した神奈川剖検センターが設立さ

れ、大きく社会貢献しています。

### <歯科医科連携の最強タッグ>

従前より、本学で実施してきた歯科医師による歯牙鑑定は、東日本大震災における身元不明者の多くを、御親族へお返しする「身元特定・確認」の決定的な根拠として利用されてきました。またDNA鑑定も、本講座の山田良広教授(歯科医師・医学博士)、大平寛准教授(歯

科医師・歯学博士)らが得意とする分野として、国内のみならず国際的にも高い評価を受け、警察の科捜研(科学捜査研究所)で鑑定困難な事例であっても、本講座であれば鑑定可能な症例も多く、各種機関から依頼が集まっています。このように、法医学歯科学分野で先進的な活動を推進してきた講座に、医師が加わることで、歯牙・口腔のみならず、全身を診て、視て、見る法医学実務・研究が可能となり、図のようなCT画像で体内を観察することが可能となりました。これが上述の神奈川剖検センターです。

### <今後の展望>

2018年12月には、法医学分野では世界最高水準の性能である80チャンネルのCTに機器が更新され、今まで1時間以上かかっていた全身CTの撮影時間が、わずか3

分程度と、大幅に短縮され、診断精度も飛躍的に向上します。今後、当講座では、歯科医師と医師の連携により、口腔疾患と全身疾患の関連性を、実際の臓器をみながら検証する研究や実務に、今まで以上の高精度かつハイスピードに取り組んでゆく計画です。

### <謝辞>

医師として、神奈川歯科大学の一員に加えていただき、早いもので2年余りが経過しました。本学の皆様が日々、わたくしどもにお力添えくださったお陰様で、無事に、そして発展的に本講座及び剖検センターを運営することができました。これからも、皆様のお役に立つ、一人の本学教員として、努力してまいります。紙面をお借りして、心より御礼申し上げます。



図 CTの再構成画像(左から骨モード、皮下モード、臓器モード、三次元骨格モード)

## 教学部だより

### 歯学部

#### 平成30年度 第2回学年別懇談会

平成30年11月、神奈川歯

科大学にて第2回学年別懇談会が開催されました。今年度より各学年での開催となりましたが、多くの保護者の皆様にご出席いただきました。各

学年主任・担任より現在の授業状況や学生のサポート体制について説明がありました。その後、希望者に対して各担任と個別面談を実施いたしました。



#### 第50回 全日本歯科学生総合体育大会表彰式

今年の第50回全日本歯科学生総合体育大会で入賞した学生の表彰式が稲岡祭で行われました。スキー部が女子団体

総合優勝、スキー部所属の歯学部2年齋藤麻梨奈さんが女子個人総合優勝・スーパー大回転女子優勝・大回転女子優勝・回転女子準優勝、同じくスキー部所属歯学部5年井上

麻衣さんが女子個人総合第三位・スーパー大回転女子第三位でした。また陸上競技部所属の歯科衛生学科3年宮本有香さんが女子走高跳第一位でした。



### 短期大学部

#### 平成30年度 神奈川歯科大学短期大学部 生涯学習セミナー

平成30年10月19日(金)に「多職種で関わる新しい歯周病プログラム～歯を磨いていけば大丈夫という考えはもう古い?!～」のタイトルで

公開講座を開催致しました。参加者は51名、神奈川歯科大学大学院口腔統合医療学講座教授の三辺正人先生と、神奈川歯科大学短期大学部歯科衛生学科講師の山本裕子先生による講義が行われました。

三辺先生から歯周病と全身疾患の関わりについて沢山の

見やすいスライドで説明をしていただいた後、山本先生から食習慣や生活習慣病が全身の健康につながる事や多職種連携について説明していただきました。受講後のアンケートでは、とてもわかりやすい内容で時間が短かったとの声が多くみられました。

今後も参加者のニーズに応えられるセミナーの開催を予定しております。



### 戴帽式

平成30年9月8日(土)に、今年度の戴帽式が挙行されました。これまで看護師の象徴だったナースキャップは、感染予防や医療安全の観点から、1990年代の後半に廃止が始まり、今世紀に入り

ほとんどの病院でみられなくなりました。戴帽式は、近代看護の生みの親であるナイチンゲールの精神を受け継ぐ、という意味を持ちます。共に医療職を目指す看護学生と歯科衛生学生が、初めての病院実習に臨む前に、職業に対す

る意識を高め、またその責任の重さを自覚するための儀式となっています。この日の誓いを胸に、愛の精神に満ちた看護師、歯科衛生士としてびとの健康を支え、社会に貢献することを期待します。



## 大学院だより

神奈川歯科大学の専任教職員を海外に派遣して歯学に関する学術研究、教育研修又は教育事情を研究調査し、本学における研究、教育の発展に資することができる幹部候補を養成することを目的として「長期海外派遣研究員制度」があります。現在本制度を利用して2名の先生が日々研究に勤んでいます。

口腔科学講座の猿田樹理先生は2017年5月から、カリフォルニア州立大学ロサンゼ

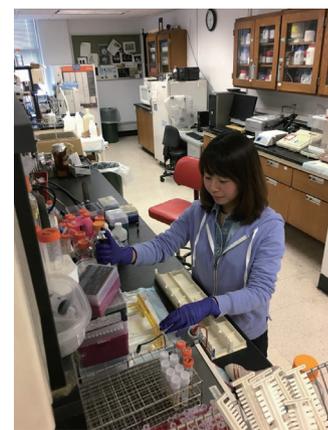
ルス校(UCLA)の歯学部留学しています。UCLAは全米でもトップレベルの総合大学で世界有数の研究所がいくつもあり、様々な分野の研究者と交流ができる大変恵まれた研究環境で猿田先生は研究に勤んでいます。



佐々木悠先生は2018年3月から、ニューヨーク州立バッファロー校の歯学部留学しています。ニューヨーク州立大学群のうち最大規模の研究大学で3つのキャンパスに13の学部があります。歯学部には7つの講座が存在し、佐々木先生は教授を含め6名のスタッフのいる研究室で日々研究を進めています。

日本との文化的な違いを意識する場面も多く、生活環境等で苦労が多々あると思いますが、海外留学で学んだことが本学の研究、教育に大いに

貢献できると思います。少しでも多くの先生方が、海外留学を将来的な選択肢として視野に入れて本制度を活用してほしいと思います。



## 図書館ニュース

### 洋雑誌：Nature が電子で閲覧可能に

2019年1月よりNature, Nature Genetics, Nature Medicineの3誌を冊子から電子に移行しました。これにより、学内だけでなく横浜クリニックからも閲覧可能となります。また、Springer系列のジャーナル約1,600誌が利用できるSpringerLink e-Journal Legacy Packageを導入しました。どちらも2000年以降の論文についてアクセスが可能です。

そのほか、American Journal of Physiology, FASEB Journalも冊子から

電子に移行となりました。閲覧可能な電子ジャーナルが大幅に増えましたので、ぜひ研究活動にお役立てください。

### 和雑誌：医書.jp 導入

2019年1月より医学書院のMedicalFinderから医学書院以外のジャーナルも収載した医書.jpに切り替えました。収載出版社は、現在8社、学会誌も含め75誌が閲覧可能です。これに伴い、下記8点が冊子から電子に移行となりました。

- ・内科
- ・外科
- ・手術
- ・小児科
- ・臨床放射線
- ・整形外科
- ・皮膚科の臨床
- ・がん看護

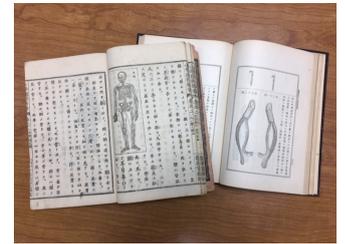
### 明治期の自然科学書籍の展示

平成30年(2018年)は明治元年(1868年)から起算して満150年という節目の年で、改めて明治期を振り返り、将来につなげていくために、内閣府が地方公共団体や民間企業と共に様々な取り組みをしていました。その一環として、平成30年10月15日から12月15日まで、明治期の自然科学書籍の展示を行いました。

#### 『展示図書一覧』

- ・歯科薬物学 / 高山歯科医学書院編, 1895 出版
- ・抜歯術 / 荒木 盛英編, 1899 出版
- ・歯科組織及病理學實習法 / 花澤 鼎著, 1910 出版

- ・小學理科新書 甲種 / 學海指針社著, 卷之一～卷之四, 1892 出版
- ・小學理科 / 西村 正三郎編, 卷一～卷四, 1892 出版



## 入試広報だより

### 2018年度 オープンキャンパス開催日程

#### 【短期大学部】オープンキャンパス開催日程

日程	内容
3月17日(日)	学科説明、入試説明、体験授業、学内見学 個別相談、先輩と話そう!

※全日13:00～16:00【事前予約制】  
※詳細はHPをご確認ください(URL: <http://www.kdu.ac.jp>)

## 「日本口腔インプラント学会 ヒューフレディ賞」を受賞

平成30年9月15日(土)口腔科学講座大学院生、山本麗子歯科衛生士が第48回日本口腔インプラント学会学術大会・歯科衛生士優秀発表賞「ヒューフレディ賞」を受賞されました。附属病院の歯科衛生士として臨床経験を大学院の研究に生かした成果です。歯肉血流の改善でインプラント周囲炎を予防するとい

う歯科衛生のエビデンスに基づいた研究が評価されました。



山本麗子 松尾雅斗 東 雅啓

### 歯学部 2019年度 入学試験実施一覧

歯学科 (定員 110名 男女)		
試験区分	試験日	合格発表
一般1期	1月26日(土) 1月27日(日)	1月31日(木)
大学入試センター試験利用1期	1月26日(土) 1月27日(日)	2月8日(金)
一般2期	2月17日(日)	2月21日(木)
大学入試センター試験利用2期		
一般3期	3月10日(日)	3月13日(水)

※詳細はホームページをご覧ください

### 短期大学部 2019年度 入学試験実施一覧

歯科衛生学科・看護学科		
歯科衛生学科 (定員 120名 男女)		
試験区分	試験日	合格発表
一般	1月27日(日)	1月30日(水)
特待生		
A03期	エントリー期間: 随時【3月20日(水)まで】 試験日等は個別にお知らせいたします	
看護学科 (定員 80名 男女)		
試験区分	試験日	合格発表
一般	1月27日(日)	1月30日(水)
特待生		
A02期	3月3日(日)	3月13日(水)

※詳細はホームページをご覧ください

「ご寄附のお願い」 教育研究及び学生支援の充実等のために、ご支援をお願いしております。

#### 教育環境整備充実のための寄附金

教育研究及び学生支援充実、キャンパス整備等に活用していきます。



#### 臨床教育環境充実のための寄附金

臨床教育に必要な器材に活用していきます。



【お詫び】 第32号でご紹介させていただきました寄付者芳名につきましては、杉村歯科医院様のお名前記載漏れがございましたこと杉村歯科医院様ならびに関係者の方々に心よりお詫び申し上げます。以後このようなことのないよう確認を徹底してまいりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。